

会員様特別

2025下半期セミナー

2025.06

主催：暁投資顧問

講師：千竈鉄平

本セミナーの目的は下記3つとなります。

現在の市況を知る



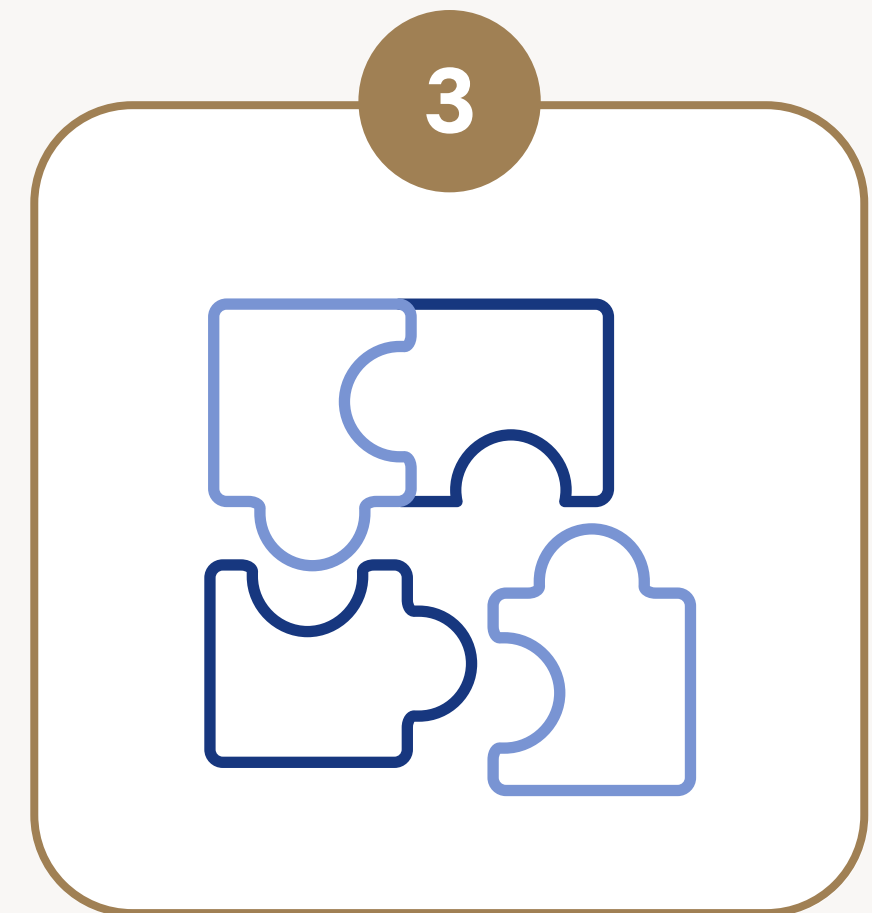
現在の市場動向と課題を正しく理解します。

資産運用を検討する



資産運用の重要性と方法を検討します。

解決方法を知る



具体的な方法や、悩みの解決方法を提案します。

01 | 下半期相場見通し[平下/千竈]

02 | 2つの国策

03 | 先物オプション戦略のご案内

01

下半期相場見通し

2025年下半期の相場見通し

2025年下半期の相場見通しですが、不確実性が高く予想できないというのが正直なところ。

私が重要視する株価指数のトレンドにしても、日経平均株価、TOPIX共に強いトレンドは出ていません。

指数のトレンドから全体相場がこうなりそうだと予想するのも難しい状況。

昨年下半期、日経平均株価は7月11日に過去最高値42426円77銭をつけた後に8月5日には31156円12銭まで下落しました。

こういった動きを事前に予想しろといっても不可能です。

ですので、短期売買の場合はマーケットの動きに反応すべきか受け流すべきか、都度判断して行く必要があります。

ChatGPTに2025年下半期の米国株と日本株の相場見通しを確認してみました。

ChatGPTの米国株見通しは

▶ 総合評価（米国株）

短期（7～9月）：強気継続。ただし急騰後の調整リスクあり。

中期（10～12月）：選挙前後の不透明感から一時的に下押しも、年末に向けて再上昇の可能性。

注目セクター：AI・半導体、通信、軍需、インフラ、再生可能エネルギー

そつない答が返ってきました。ただ、良く返答を読むと

▼ リスク要因

11月の大統領選挙

トランプ氏再登板の可能性含め、政策の不確実性が高まり、ボラティリティ上昇の可能性。

と、なぜかリスク要因に大統領選が挙げられており、あまり参考になりません。

— 下半期相場見通し [平下]

ということで、AIに先行きを聞いても、参考になりませんでした。
やはり発生したイベントや足元の経済指標等から都度、先行きを予想して行くしかないでしょう。
下半期を予想するに当たって私が注目するポイントは

- トランプ政権が掲げる高関税政策の行方
- 金利高止まり
- 米国の実態経済
- 米中貿易摩擦
- FRB・日銀のスタンス

この5点です。

— 下半期相場見通し [平下]

改革を掲げスタートしたトランプ政権。

市場はコストカットや関税に戦々恐々でしたが・・・

4月に発表された相互関税はマーケットが荒れるとすぐに90日間の停止を発表。

政府債務削減を推し進めようとした政府効率化省（DOGE）のリーダー、マスク氏は早々に退任。

現時点ではトランプのやろうとしていることは頓挫しつつあるように見えます。そういった政治要因は二転三転しますし何が飛び出すか分かりませんので予想は出来ません。

ですので私は実態経済や企業のファンダメンタルズと実際の株価のトレンド、そして中央銀行の金融政策を見ながら漠然と先行きを予想したいと思います。

— 下半期相場見通し [平下]

結局、2025年下半期の日本株を左右するのは米国株と為替とみています。米国の実態経済を確認出来る指標は幾つかありますが、米国のいまの実態経済の強さを示すのがアトランタ連銀の発表しているGDPNow。これが2025年3月から4月にかけて大幅に下振れし4月には-3.7%まで低下しました。これは2021年以降の最低値でしたが、それが6月には一転4.6%まで上昇しており、ブレブレです。

企業の景況感を示す5月ISM製造業PMI、非製造業PMIとも市場予想を下回っており、トレンドは下向き。小売売上高は1月、2月と冴えませんでした。3月は関税導入前の駆け込み需要もあったようで急増。4月はその反動減が出ており、5月が注目されるどころ。

— 下半期相場見通し [平下]

半導体需要の強さを示す台湾TSMCの4月月次売上高は過去最高となる3495億台湾ドル。

これも関税導入前の駆け込み需要が指摘されており、5月、6月に反動が出るかどうかには注目です。

これがもし駆け込み需要ではなく5月、6月と売上高が増えるようなら半導体株が指数を牽引するシナリオも考えられます。

リスクオンの指標として注目されているビットコイン価格は5月下旬以降調整しており、こちらはいまひとつ冴えず。

また、米10年債利回りは4.4%台で高止まりしており、こちらも株価にとっては逆風。

— 下半期相場見通し [平下]

景気後退の予兆をいち早く示すとされる失業率（昨年8月の日経平均暴落の切っ掛けにもなりました）は4月4.2%。

昨年7月の4.3%から僅かに低下していますが改善の兆候は見えず。

以上を総合的に判断すると、現時点では2025年下半期（2025年6月～12月）はサプライズがなければ、

日経平均株価が40000円を抜けて高値トライする展開は難しいと予想。

夏から秋にかけてはもみ合い～調整、調整が入ればそこから年末にかけては反発を予想しますが、注意点は次ページで解説。

■ 下半期相場見通し [平下]

右下はドイツDAX指数の長期週足チャートです。

ドイツの経済指標は悪いのですがお構いなしに株価は上昇。

財政拡張や特定の銘柄が指数を牽引。

4月関税ショックで急落しましたが、いまは急落前の高値を更新。

上場来高値圏です。

いまは空前のカネ余り相場。

日本株も2023年、2024年と急上昇する場面がありましたが、金融相場を連想させる材料が出た場合は意外高する可能性があります。



— 下半期相場見通し [平下]

欧州の中銀ECBは利下げ真っ最中、日銀は利上げの途上。
中銀のスタンスの違いがDAX指数と日経平均株価の差ともいえます。
もし日銀がスタンスを変えるようなことがあればサプライズとなりそうですが、
私は現時点ではその可能性は低いとみています。

逆に昨年8月暴落時のように米国の景気後退リスクが浮上した場合、
実態経済悪化、FRBの利下げ予想からドル安円高加速、
日本株は二重苦で厳しい展開が予想されます。
いま米国の実態経済があまり芳しくありませんので、
現時点ではリスクシナリオの方を警戒しています。
何か気付きがあれば随時あかつきコースでお伝えして参ります。

2025年下半期注目銘柄 4293 セプテーニHD 東証S

インターネット広告会社。電通グループ傘下。デジタルマーケティング事業で企業のDX支援、AIを活用したソリューションを提供。



予想PER21.8倍、PBR1.28倍、予想配当利回り4.51%。

成長性は緩慢ながら4期連続増配中。

資本効率向上ファンド（TOBハンター）組み入れ上位銘柄。

5月12日に出た2025年第一四半期決算は売上高、営業利益は伸びていましたが、純利益は56%減で冴えませんでした。

— 下半期相場見通し [平下]

ただ、株価は決算後に上昇しています。

株価は全体相場の急落に靡く傾向があり、昨年8月今年4月と急落。しかし300円台前半では反発しており、その辺りでは反発しています。値動きの特徴として左の週足チャートを見て頂いても分かるように、夏場から年末にかけて上昇する傾向があります。全体相場が急落しなければ一定の上昇は見込めると見てチョイスしました。

01 | 年後半に日銀リスク

02 | 買い手が事業法人×海外投資家で上昇加速

03 | 順張りではなく逆張りを意識

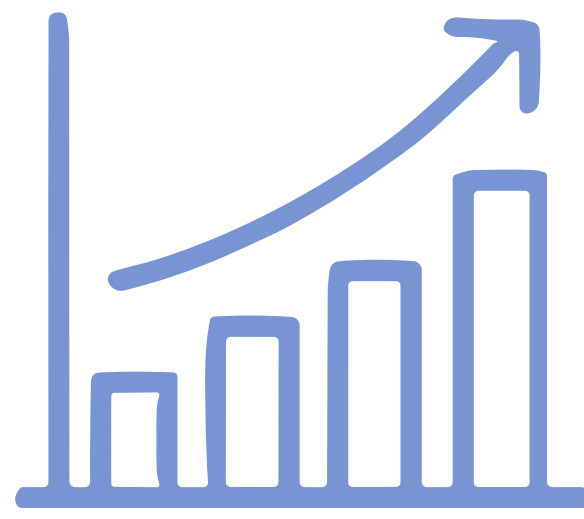
3つのポイント

1



年後半に日銀リスク

2

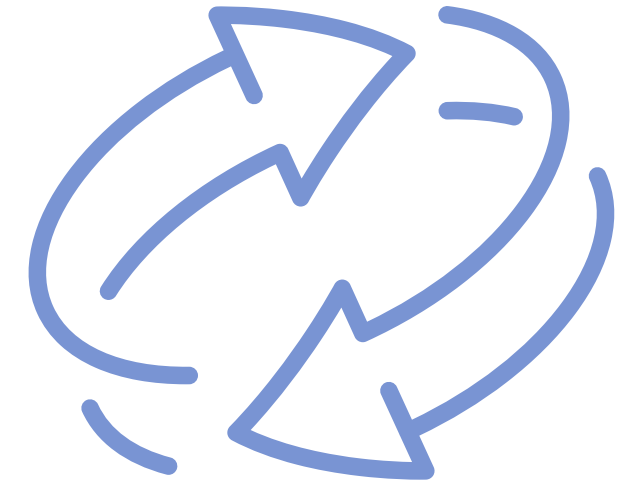


買い手が事業法人

×

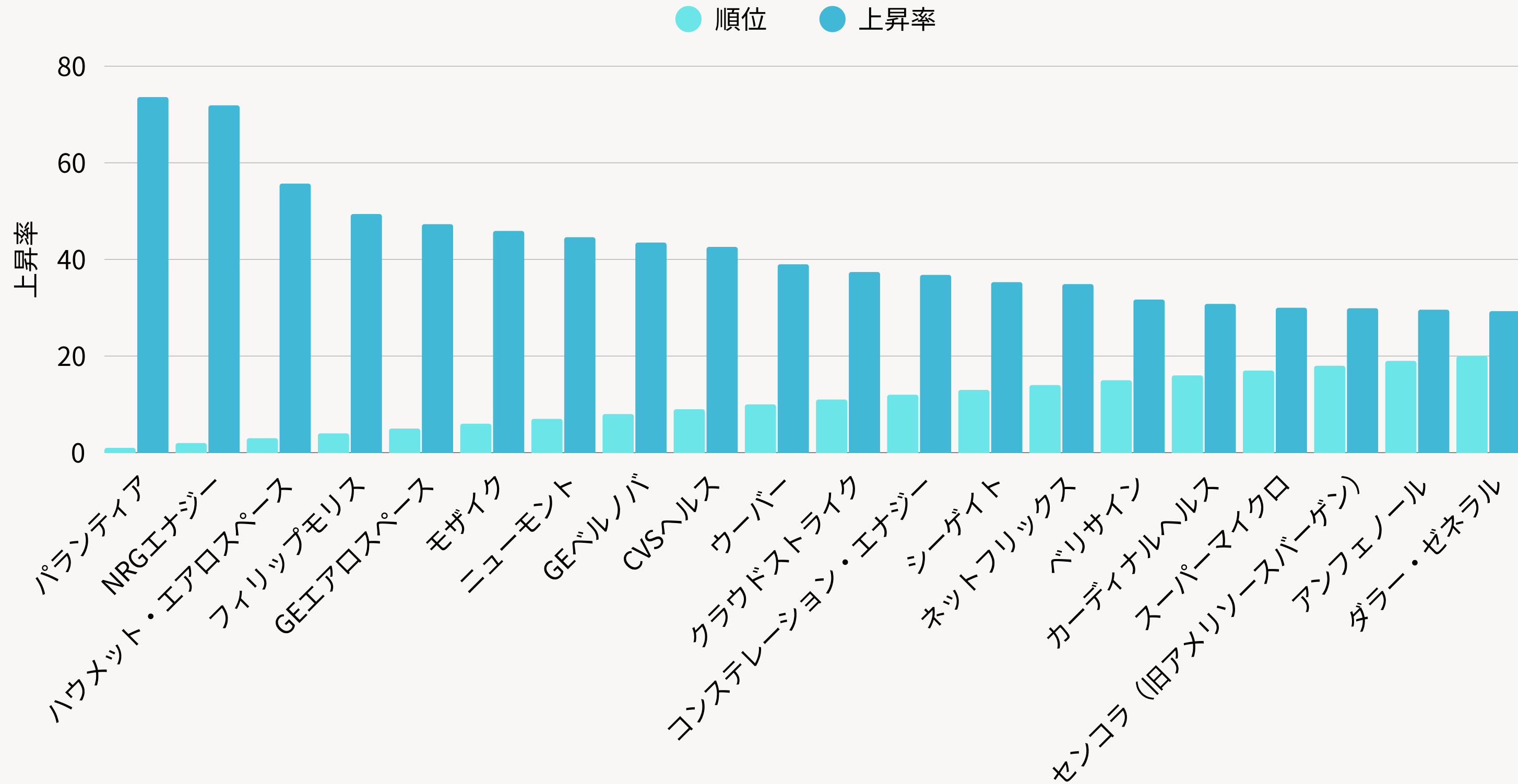
海外投資家で上昇加速

3

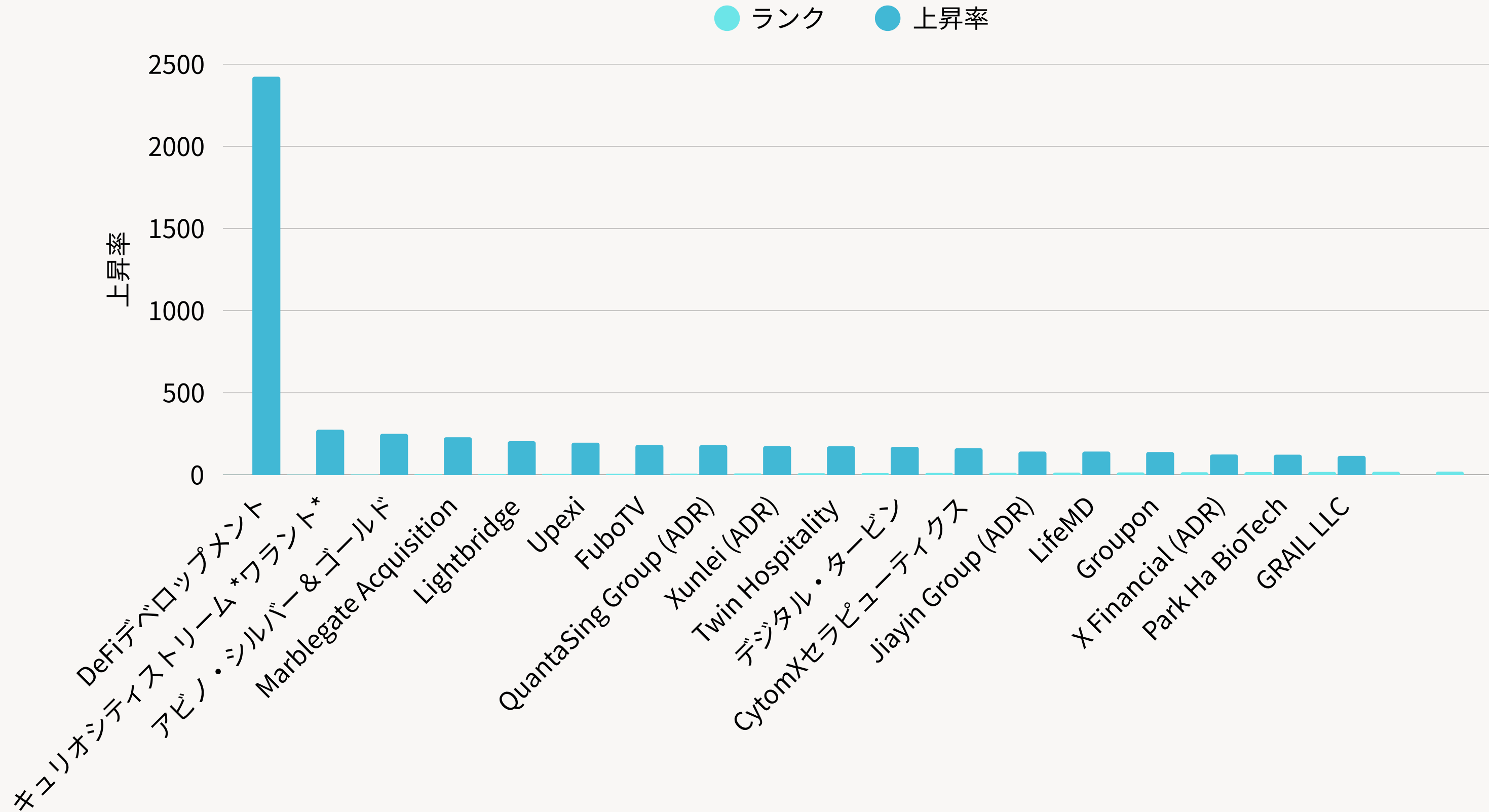


順張りではなく
逆張りを意識

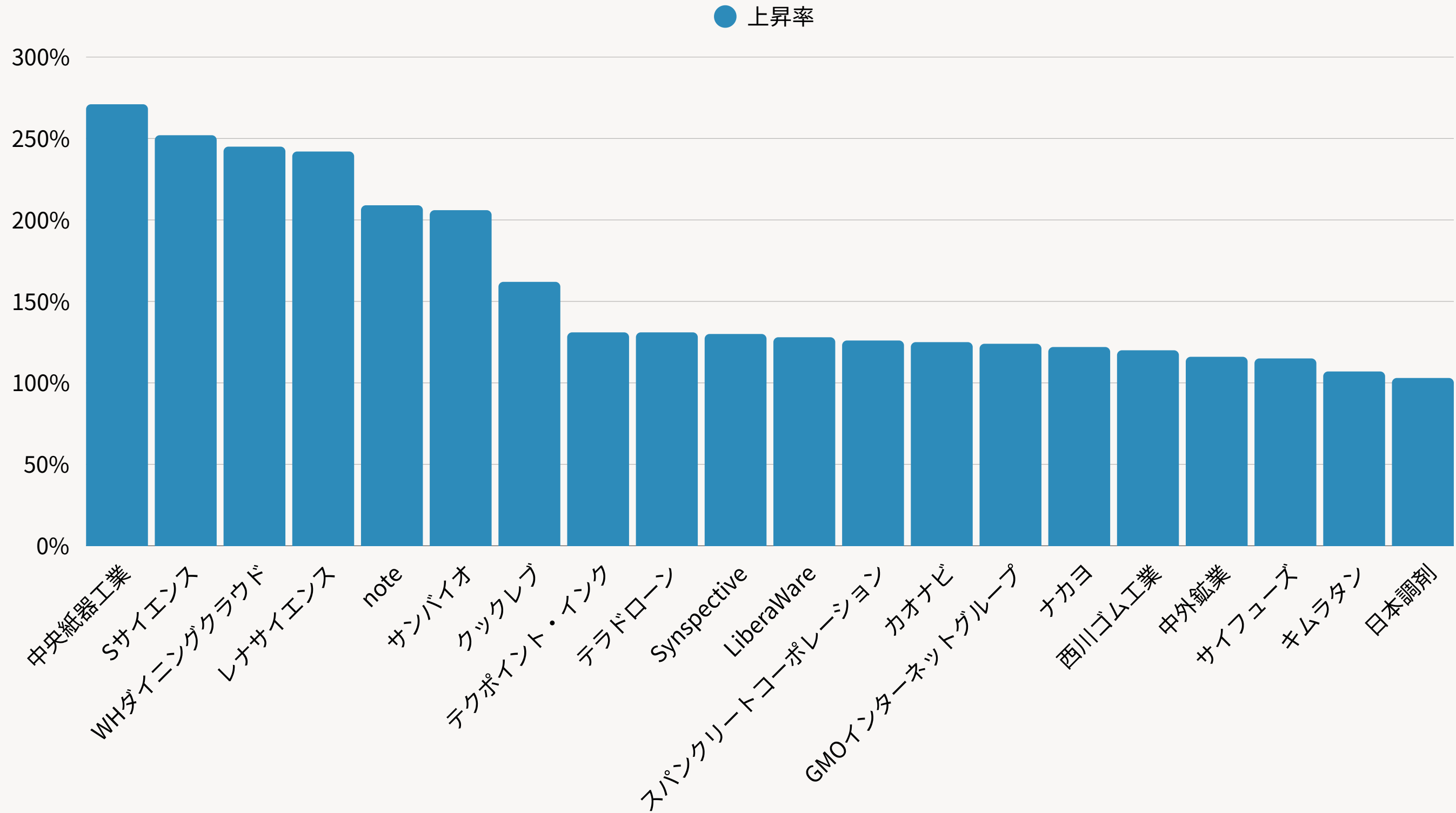
アメリカ株大型株 上昇率上位20銘柄 (2025年1~5月)



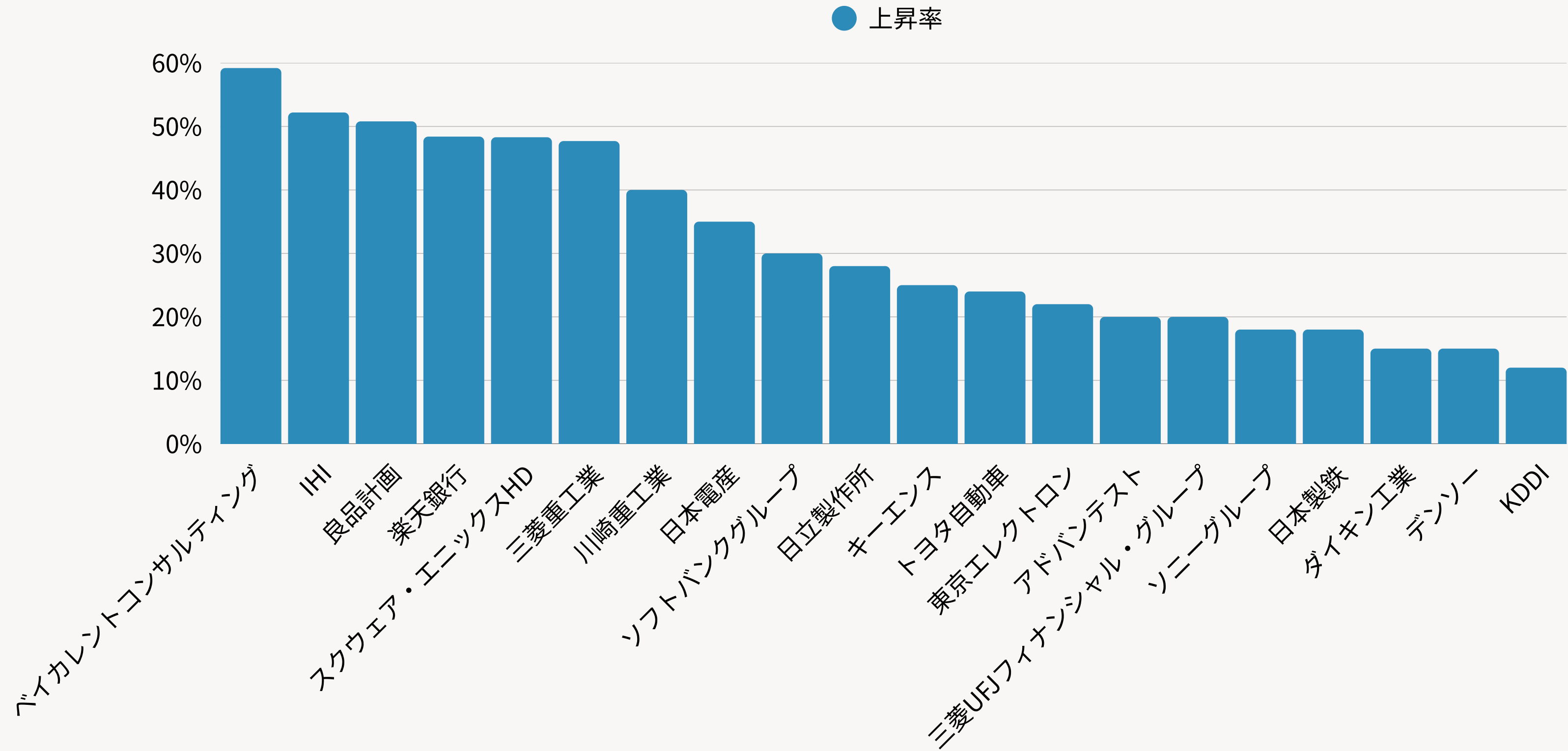
アメリカ小型株 上昇率上位20銘柄 (2025年1~5月)



日本小型株 上昇率上位20銘柄 (2025年1~5月)



日本大型株 上昇率上位20銘柄 (2025年1~5月)



■ 下半期相場見通し [千竈]

長い道のりほど果実は大い。

配当込みTOPIXが示す資産形成の王道、来年も迷わず一歩ずつ。



— 下半期相場見通し [千竈]

配当込みTOPIXは、企業配当をすべて再投資した前提で算出される「トータルリターン型」のTOPIX。

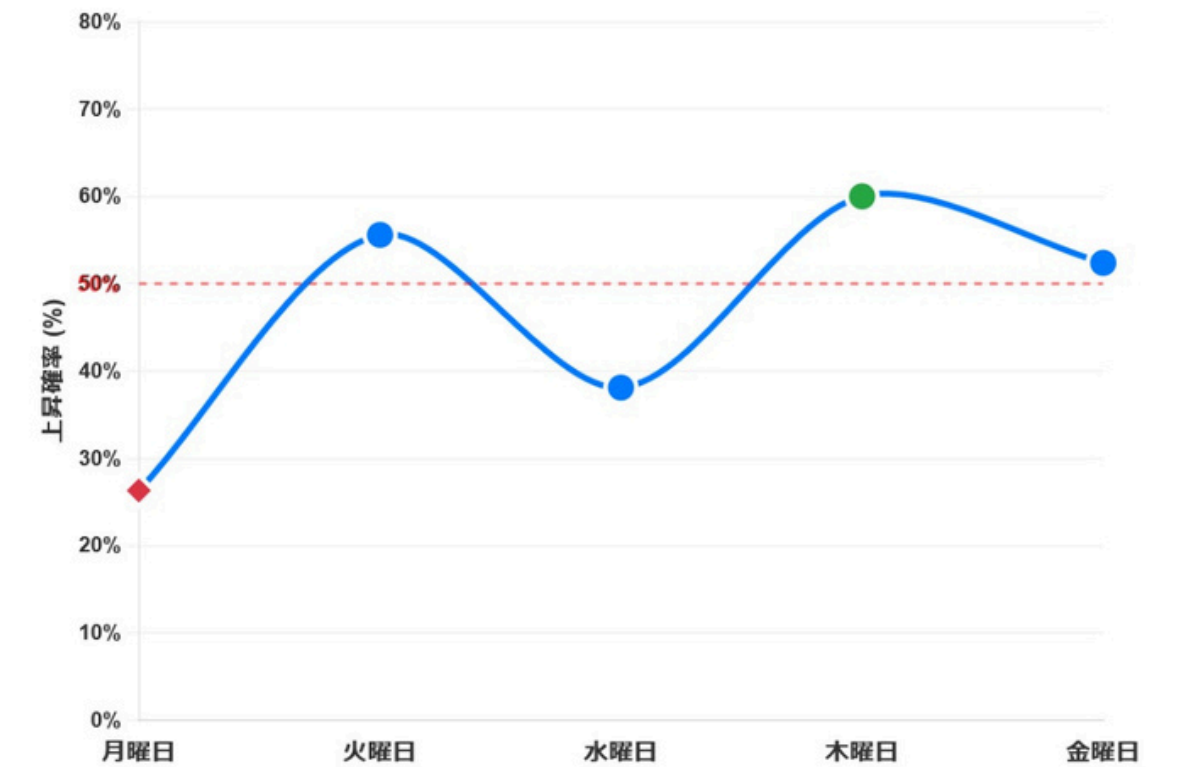
価格のみのTOPIXより長期リターンが大きく、

- 複利効果と配当の重要性を可視化できる。
- 年金基金など機関投資家は、この指数をベンチマークにし、運用成果を配当込みで評価する。
- 国内ETF（例：TOPIX配当込みETF）でも追従可能で、個人投資家も同条件で投資できる。
- 近年は増配・自社株買いの追い風で、配当込みTOPIXが従来以上に価格指数を上回る傾向が強い。

月曜日底パターン

- ✓ 月曜日の上昇確率**26.3%**（全曜日で最も低い）
- ✓ 直近10回の月曜日のうち**9回**が下落
- ✓ 月曜日下げ幅は4000円
- ✓ 最短2日後に発言ひっくり返す
- ✓ 約4回に3回は下落
- ✓ 週明けリスクオフでコール買いや防衛株買い

2025年1月～6月のデータ分析



2025年1月～6月のデータ分析



日本企業特有の保守的計画策定文化を逆手に取る

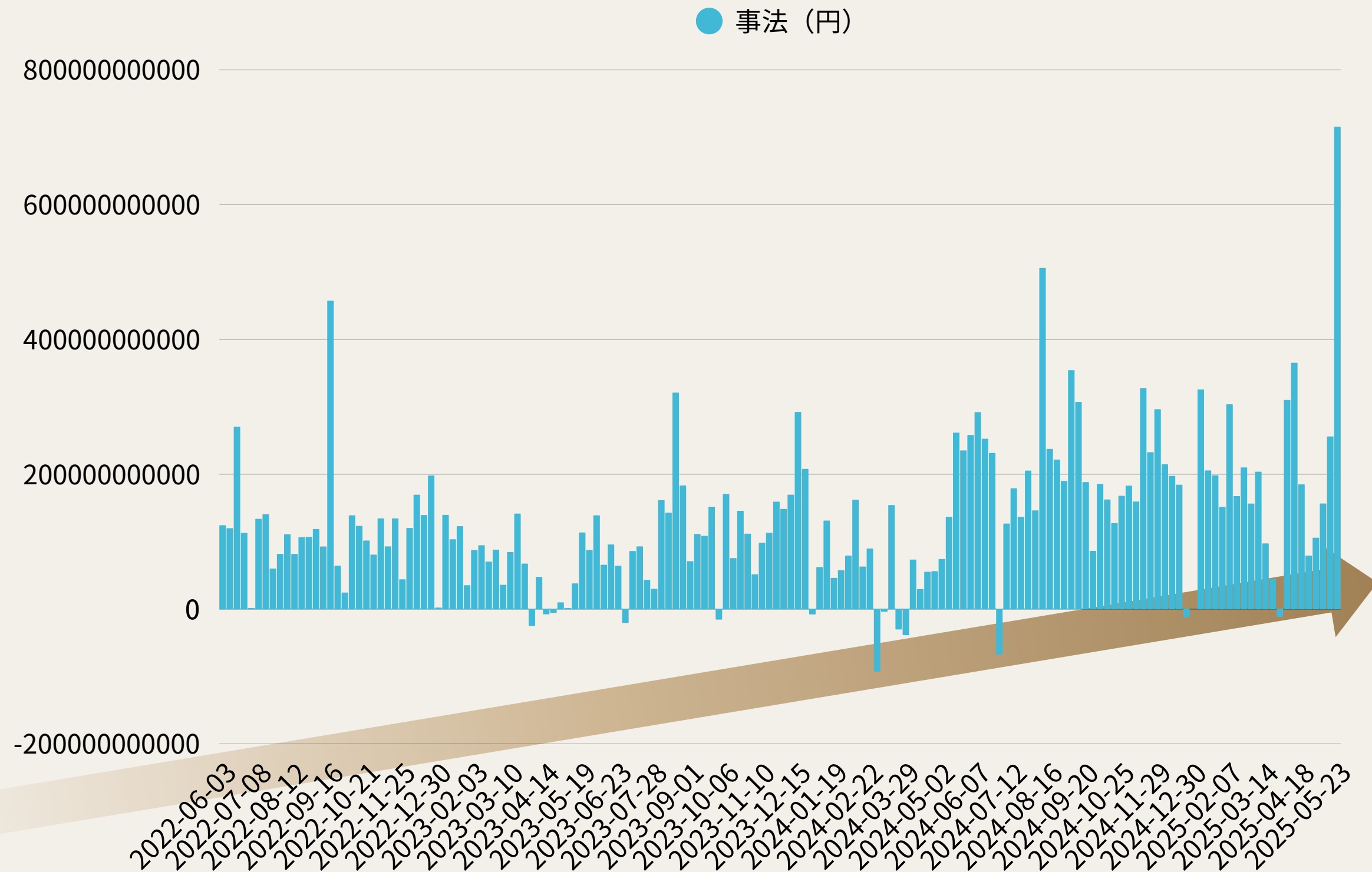
1. 期初計画は構造的に保守的
2. リスク回避的な企業文化
3. 外部環境の不確実性
4. 期中に業績計画の下方修正を行う事態は避けたい

概ね実績値はほぼ上回る 100~120 %

「期初計画を10%以上上振れ」銘柄群は
年間で約25%のアウトパフォーム

企業の自社株買いが日本株市場の安定的な買い手

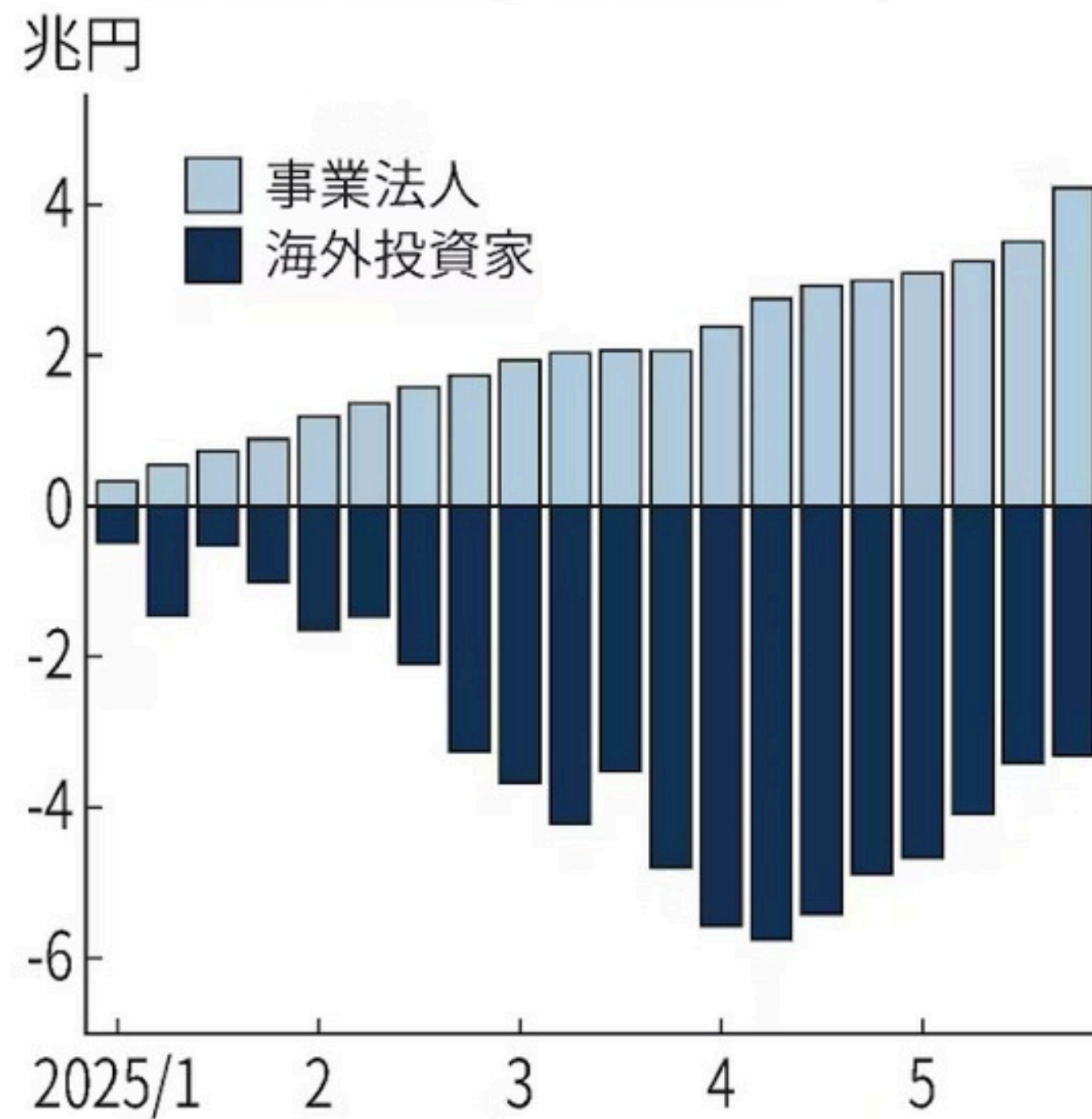
投資部門別売買動向 事業法人3年グラフ



■ 下半期相場見通し [千竈] 日本株の現状 2

海外勢の日本株売りを事業法人が吸収

(主体別の年初からの累積売買動向)



(注)現物株と先物合計、出所は日本取引所グループ

資本効率の改善余地は大きく、
自社株買いが増えることは当然。

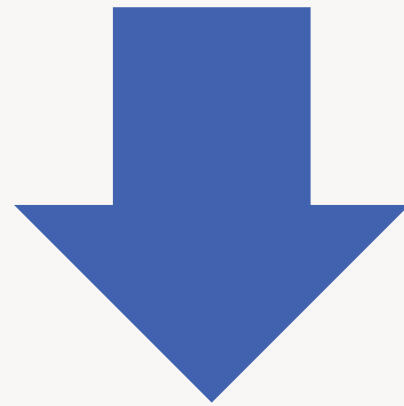
海外投資家は現物株と株価指数先物を
25年初からの累積で3.3兆円売り越した。

一方、事業法人は年初からほぼ一貫し
て買い越し。

買越額は4.2兆円

出所 日経新聞から

- 強気な会社計画と自社株買い
- 25年度の自社株買い発表額は5月時点で既に過去最高水準
- 海外投資家の売り圧力を緩和



- PBR向上圧力 東証の市場改革による資本効率改善要請
- 配当に加えた機動的な還元手段
- 自社の株価は割安とのメッセージを市場に送る
→ 「シグナリング効果」

中長期的なアルファ創出するための

スクリーニング条件

- 今期増益予想かつ前年計画達成率100%超
 - 自社株買いまたは増配を発表
 - PERが同業平均以下
 - 過去1ヶ月で出来高急増（関心度の高まり）
 - 明確なネガティブ材料なし
- 4個以上○なら投資候補
- 5個○なら最優先投資対象

リスク一覽

- 日銀の追加利上げ時期は2025年10月頃に後ろ倒し
- 米国のトリプル安（放漫財政）
- 日本の国債買い手不在
- 選挙結果次第で日本版トラスショック

インフレ抑制狙いの1%利上げへー

金利コスト増で投資減速、

景気と株価に波及する二面リスク

日経平均株価トレンドライン



02

2つの国策

AI × エネルギー × 量子

■米国は「量子コンピューター・AI用データセンター・次世代原子炉」の3分野を、1つの“法体系&補助金セット”でまとめて後押しし始めています。

■日本もGX（グリーン・トランスフォーメーション）基本方針の中で、量子→DX/AI需要→クリーン電源（原子力）という循環ルートを政府が設計しました。

■投資の視点では、3分野は“別々”ではなく束ねて動く複合テーマ。中長期で国策マネーが流れ込むため、成長ストーリーに厚みがあります。

1

技術的依存関係 「連鎖反応」

量子コンピューターがAIを**1000倍**高速化し、そのAIが電力を**10倍**消費する技術的連鎖

量子→AI加速

量子優位性によりAIの機械学習が劇的加速
GoogleのSycamoreで実証済み
従来のスーパーコンピューターでは不可能な計算を実現

AI→電力爆増

ChatGPT1回の使用 = Google検索**10回分**の電力消費
生成AI1回あたり約2.9Wh消費
従来検索の約10倍のエネルギー

需要予測

データセンター電力需要：
2030年まで年率**20%**増加予測
現在200TWh → 2030年500TWh

原子力必須

再生可能エネルギーだけでは間に合わない
24時間安定供給が必要
太陽光・風力は出力変動が大きすぎる

2

タイミングの同期 「黄金期」

3技術が同時期に実用化ピークを迎える**2025-2030年**が投資の黄金期

📅 技術実用化スケジュール

2025

量子コンピューター商用化開始
IBM、Google

2026

生成AI市場が**\$1兆**規模に到達予測
企業導入本格化

2027

小型モジュール炉 (SMR)
初号機運転開始

2028

量子AI融合による
次世代システム実用化

2029

AI専用原子力発電所
建設ラッシュ開始

2030

原子力によるAI電力供給
体制確立

🕒 今後5年が技術覇権を決める決定的期間

3

中国との競争 「包囲網形成」

個別対応では追いつかれるリスク

緊急

3分野同時攻略で技術的優位を確保

🇺🇸 米中技術競争の現状

 アメリカ

量子投資 **\$25億**

AI企業 **OpenAI等**

運転中原発 **93基**

 中国

量子投資 **\$15億**

AI企業 **ByteDance等**

建設中原発 **21基**

- 中国の量子技術論文数が世界1位（米国を追い抜く） - Nature Index 2024

- 中国のAI特許出願数：年間4万件（米国の2倍） - WIPO報告

4 エネルギー安全保障 「自立への道」

AI時代の電力不足を原子力で解決し、エネルギー完全自立を実現

電力需給の現実

現在の電力需要 **4,000 TWh/年**

2030年AI需要予測 **+1,000 TWh/年**

再エネ供給可能量 **800 TWh/年**

不足分（原子力必要） **200 TWh/年**

エネルギー課題

☀️ 太陽光・風力は不安定
AI運用には24時間安定電源が必須

🛢️ 石油・ガス依存からの脱却
国家安全保障の観点から緊急

🔋 蓄電技術まだ不十分
大容量・長時間蓄電は困難

⚡ 原子力による解決策



小型モジュール炉
建設加速



AI専用
データセンター



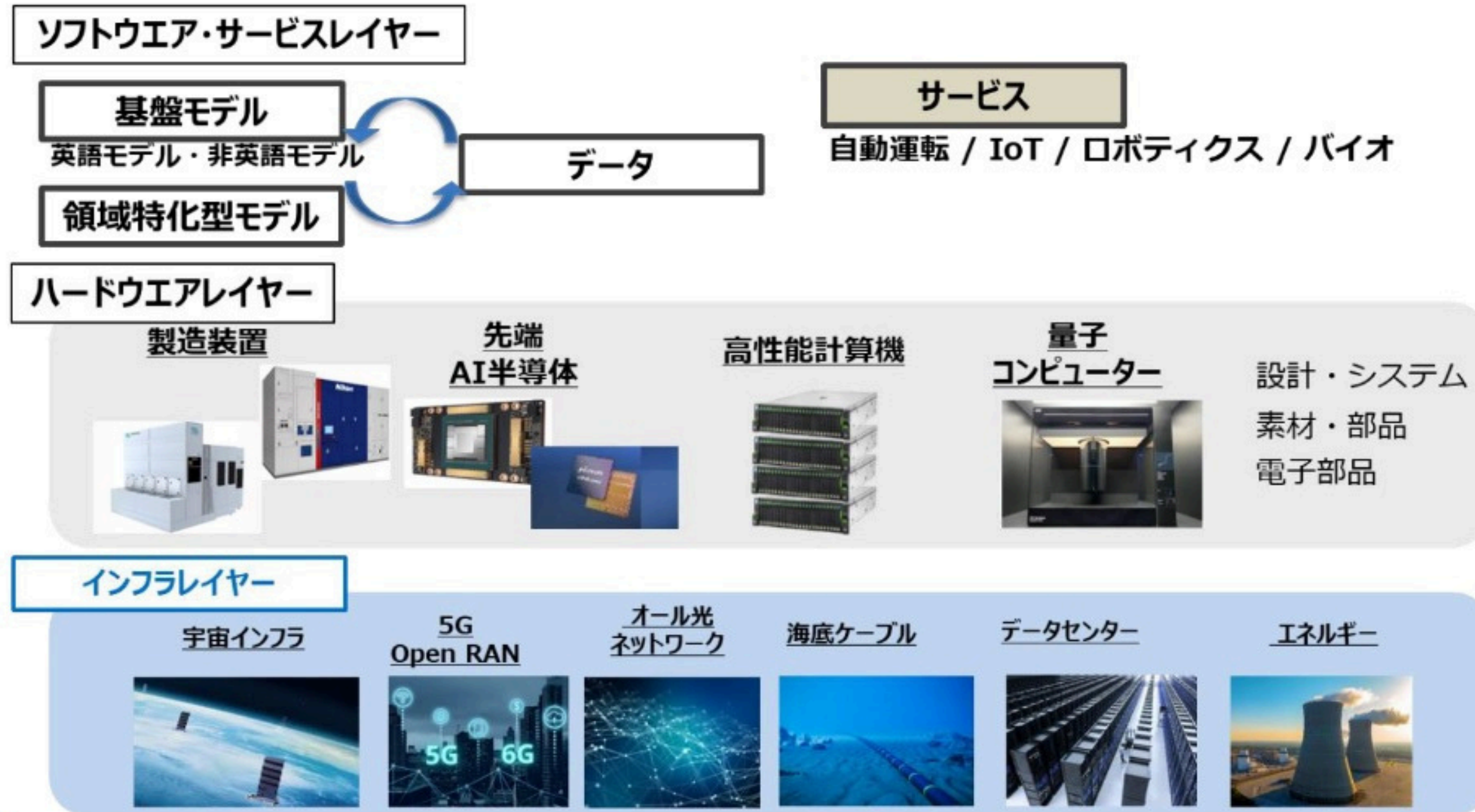
エネルギー
完全自立

図表 7 経済安全保障上重要な物資・技術

	①破壊的技術革新が進む領域 (技術優位性の創出)	②我が国が技術優位性を持つ領域 (機微技術の流出・拡散防止)	③ 対外依存の領域 (過剰依存構造の防止・是正)
コンピューティング	計算資源 ソフトウェアレイヤー	量子コンピュータ AI	組み込みソフトウェア・システム
	基盤技術レイヤー 製造SCLレイヤー	先端・次世代半導体 先端後工程 光電融合 PFAS代替	高性能パワー半導体 高性能な電子部品 マイコン 半導体製造装置・部素材
	その他		光ファイバー 海底ケーブル 複合機
クリーンテック	暮らし分野	全固体電池 固体電解質	液体リチウム電池(三元系) 正負極バインダー
	エネルギー分野	次世代型太陽電池 (ペロブスカイト) フュージョンエネルギー (部素材等)	ヨウ素 封止技術 原子力機器・部素材等製造技術 (重要機器・部品)
	産業分野		水素還元製鉄技術
バイオテック	バイオものづくり	大量培養・発酵生産技術 微生物・細胞設計プラットフォーム	分析装置 分離・精製技術 (分離膜など)
	医療機器	SaMD等のデジタル領域 血管内治療	CT/MR/内視鏡 検査機器
	医薬品	遺伝子編集・合成	細胞治療薬の製造(iPS細胞等)
3分野以外	防衛・宇宙	防衛・宇宙分野の先端技術、重要機器・部品等	航空機部素材等 (炭素繊維・エンジン用素材) 人工衛星・ロケット
	基盤技術等		航空機部素材等 (大型鍛造・鋳造) 人工衛星・ロケット 工作機械・産業用ロボット 産業用データ 品質安定化ノウハウ・すり合わせ技術 永久磁石

出所 経済産業省

図表2 AIインフラの整備に向けた包括的な取組に必要性



出所経済
産業省

20

米国は、トランプ大統領就任直後に「AIにおける米国のリーダーシップへの障壁の除去」という大統領令を発出し、前政権によるAIの安全性に関する大統領令は開発の障害になるとして撤回

● 日本：GXによる量子・AI・原子力戦略

グリーントランスフォーメーション「循環型」イノベーション

🔄 日本独自の「循環戦略」

1 量子技術基盤

2030年代に千里子ビット級を国内実装
理研・富士通が実証機を公開

2 地方AI・DX拠点

東京一極集中を是正し、地方にAI-DC分散
用地造成・送電線整備を**最大50%**補助

3 クリーン電源供給

GX予算で次世代革新炉・SMR開発
年度当初566億円（24年度）を計上

🌟 量子技術イノベーション戦略

2030年代に“千里子ビット級”を国内で実装

量子未来社会ビジョン（2022年策定）に基づき、理化学研究所と富士通が実証機を公開。量子技術による新産業創出協議会（Q-STAR）が産業界主導で推進。

実例：理研・富士通の実証機公開済み

🏠 地方DC補助（経産省）

東京・大阪に集中するデータを地方分散

データセンター地方拠点整備事業費補助金により、用地造成・送電線整備を最大50%補助。レジリエンス強化と電力負荷偏在解消を実現。

実例：石狩・福岡などでAI-DC建設ラッシュ

⚡ 次世代革新炉/SMR支援

GX予算で高速炉・小型炉に年度当初566億円

NEXIP（原子力イノベーション促進）事業による革新的原子力技術開発支援。原子力白書で具体化ロードマップを明示。

実例：原子力白書で具体化ロードマップ策定

🇯🇵 「量子→DX/AI→クリーン電源（原子力）」の3段階循環を
補助金と規制緩和でセット支援

量子コンピューター

さらに島田理事長は、ICQIAを通じたQ-STARの国際連携に加え、2025年4月に英国のUKQuantumと締結したMoU（覚書）にも触れ、「強固でオープンな協調体制を築くことで、量子技術の社会実装を加速できる」と述べ、日本の量子産業界を代表して、政府および国際社会との連携を呼びかけました。また、量子技術の産業応用において日本は材料・計測・製造の分野で強みを持つと分析し、その優位性を生かしてグローバル標準づくりに主体的に参加することが、日本企業の成長戦略そのものになると語りました。さらに、Q-STARがG-QuATと連携して進める“テストベッド”や“ユースケースの共同開発”を国際コンソーシアムと協力して推進し、標準化活動や人材交流を進めていく構想を示しました。

この発言は、日本が量子技術の国際的なリーダーシップを発揮し、開かれた協調のもとで産業と社会の未来を切り拓いていくという強い意志を示すものでした。



出遅れている日本の量子コンピューター技術

新興企業の資金調達額ランキング

順位	企業名	設立国	調達額 (億米ドル)	順位	企業名	設立国	調達額 (億米ドル)
1	サイクオンタム	米国	12.8	7	ザナドウ	カナダ	2.66
2	サンドボックスAQ	米国	5	8	IQMクアンタム・コンピューターズ	フィンランド	2.49
3	イオンQ	米国	4.32	9	クエラ・コンピューティング	米国	2.3
4	クオンティニウム	米国	3.25	10	インフレクション	米国	1.86
5	D-ウェーブ・クオンタム	カナダ	2.99		⋮		
6	リゲッティ・コンピューティング	米国	2.98				
				38	キュナシス	日本	0.24

出所日経

新聞

(出所) デロイトトーマツグループ (25年1月時点)

具体的な銘柄は以下の通り **買い推奨** **フィックス**
ターズもいいですが・・・

■ NYSE: IONQ

■ (NYSE: QBTS)

■ NYSE: IBM

■ NASDAQ: HON

NuScale Power

■ 富士通 (東証プライム: 6702) – 国内初の国産量子コンピュータを実現

■ NEC (東証プライム: 6701) – 量子アニーリングと超伝導で巻き返しを図る

■ 日立製作所 (東証プライム: 6501) – シリコン量子ビット研究と量子関連投資

03

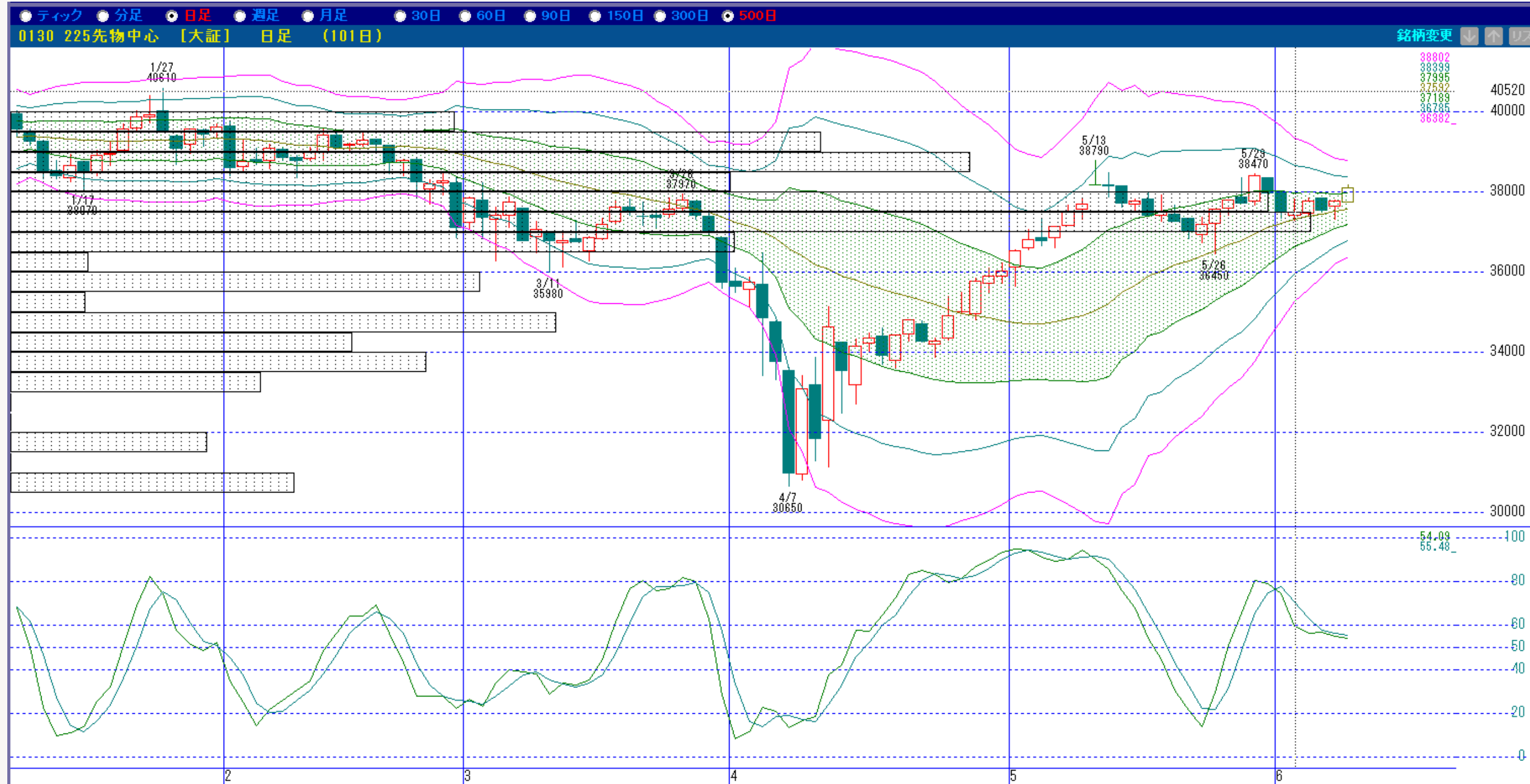
先物オプション戦略のご案内

ご自身で先物取引戦略考えるのは大変という方は、
ぜひ弊社が提供する投資戦略をご活用ください。

日経30分足×200MAを使って、逆張り戦略



日経先物はボリンジャーバンドのバンドウォーク戦略



暴落時は深OTM CALLを"仕込み"

市場が大きく下落した時こそ、
割安なコールオプションを購入するチャンスです。

安いものは売らない

プレミアムの非対称性を理解し、安易に売りポジションを
取らないことが重要です。

暴騰時は深OTM PUTで"保険"

市場が過熱した時は、プットオプションで資産を守りましょう。

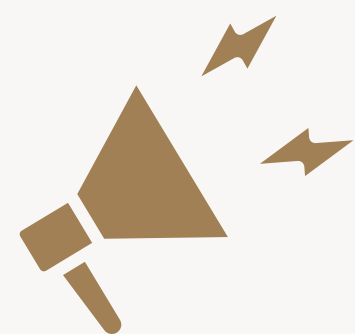
"安い"の定義 2つの尺度

Implied Vol < 20%

インプライド・ボラティリティが20より低い状態です。

プレミアム価格 < 50円

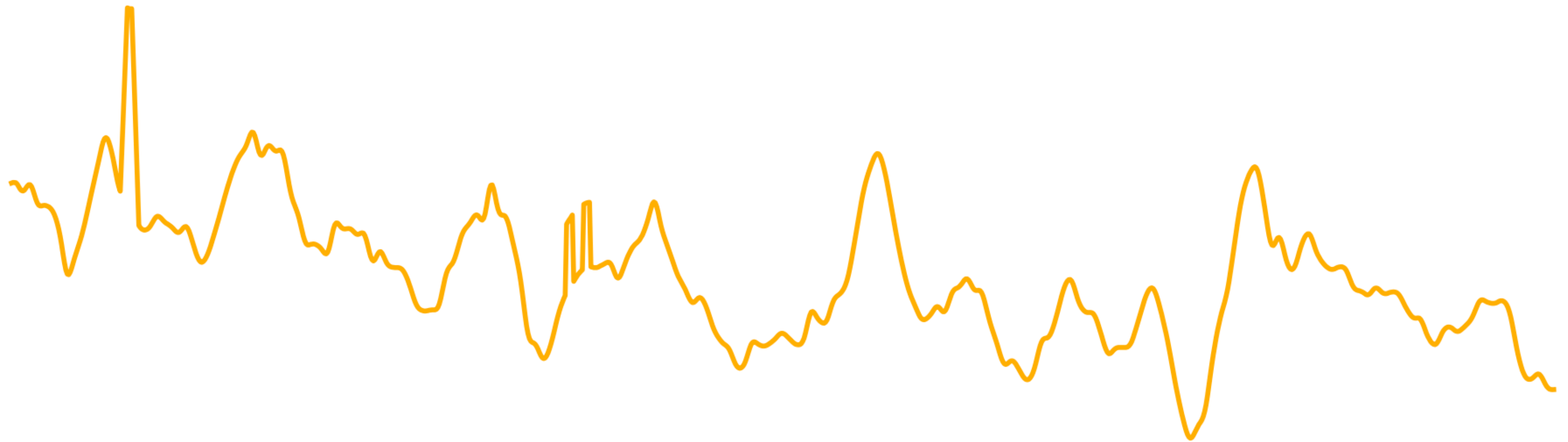
オプションの値段が50円以下の低水準にあることを示します。



買いのチャンス

この2つの条件が揃った時が最適な買いタイミングです。

空売り比率の5MAで逆張り



本書は情報の提供のみを目的として作成されたものです。本書中の情報は、当社において信頼できると考える情報源に基づいて作成していますが、当社は本書中の情報・意見等の公正性、正確性、妥当性、安全性を明示的にも黙示的にも一切保証するものではありません。かかる情報・意見等に依拠したことにより生じる一切の損害について、当社は一切責任を負いません。本書中の分析・意見等は、その前提が変更された場合には、変更が必要となる性質を含んでいます。本書中の分析・意見等は、金融商品、クレジット、通貨レート、金利レート、その他市場・経済の動向について、表明・保障するものではありません。また、過去の業績が必ずしも将来の結果を示唆するものではありません。本書中の情報・意見等が、今後修正・変更されたとしても、当社は当該情報・意見等を改定する義務や、これを通知する義務を負うものではありません。

当レポートの著作権は株式会社暁投資顧問にあり著作権法によって保護されております。無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。ネットで無断転載や情報などを見つけた場合は書き込み元のプロバイダーに開示請求を行い、然るべき手続きを行います。

当社は本教材に掲載されている証券会社との取引を勧誘・仲介・媒介あるいは広告宣伝するものではなく、お客様が実際に口座を開設される証券会社との間の契約締結ならびに金融商品取引は、すべてお客様の自己の判断と責任において行ってください。

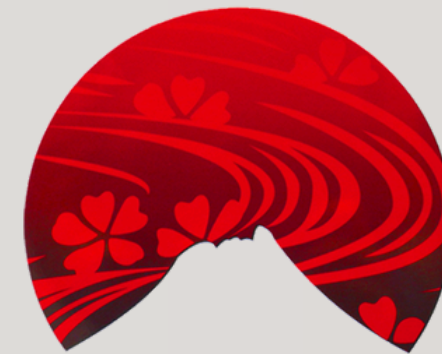
また証券口座開設や利用方法などにつきましても、法令によりご質問・相談頂いても対応致しかねます。その際にはご利用の証券会社へご自身でお問い合わせ下さい。

©2025 株式会社暁投資顧問

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2654号


一般社団法人日本投資顧問業協会 会員番号 第012-02597号

ご質問、ご相談など
お気軽にご連絡ください。



暁投資顧問
AKATSUKI INVESTMENT ADVISOR

 info@akatsuki-toushi.com

 048-999-6892

 <https://www.akatsuki-toushi.com/>

 〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷2-14-41 サンキャッスル南越谷205号室